

6月20日から22日にかけて、今年度第1回目の「笠松町あいさつ運動」が実施され、町内の各所で「おはようございます」の音が響き渡りました。

今年で9年目を迎えるこの活動は、主体となる笠松中学校生徒会とそれを支える多くの団体や有志の皆さんの協力により継続されてきた取り組みです。

小・中学校の通学路では、登校してくる児童と生徒の挨拶が交わされるとともに、各校区の見守り隊や地域の人々との間で挨拶が交わされました。さらに、各小学校の校門では、小・中学生や支援者がハイタッチをしながら挨拶を交わし合い、より心を通わせる活動となりました。

また、笠松駅では、小学生、中学生、岐阜工業高等学校生、支援者が駅構内に立ち、利用者に対して「おはようございます」と声を掛けました。

「笠松町あいさつ運動」の期間内に限らず、町内では年齢を問わず活発に挨拶が交わされる場面をよく目にします。これまでの「笠松町あいさつ運動」はもとより、日ごろから町民の皆さんが大切にしてきた道徳心の表れだと思えます。

今年度は、11月と2月に「笠松町あいさつ運動」が予定されています。挨拶は地域づくり、まちづくりの第一歩です。この取り組みを契機として、さらに挨拶の溢れるまちにしていきたいです。



笠松駅でのあいさつ運動の様子

かさまつの民話「昔むかし」
こま化け橋①

むかしむかしのこつちや。
鎌倉街道といつてな。京都
から鎌倉へ行く道が、北及
たりを通つておつた。それは、
えらいにぎわいでなあ。足利
將軍さまも通つたというこ
つちや。

それにな。京都の大徳寺さ
んの領地ちゆうこつて、野に
は、毛なみのよい馬が飼われ
ておつたし、及川には、底の
石が手に取るようにみえる清
い水が流れておつて、自慢の
九間橋がかかつておつた。
さわやかな及川の水の音は、
都まで伝わつておつてな。え
らい公家さんたちも旅の途
中に立ち寄つては、舟遊びや
歌会などをして休んでいかつ
しやつたもんや。

ところがな。田植えも近い、
よう雨の降る日のこつちや。
「大変じゃ。また、橋が落ち

かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。
笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。

たぞぞ。
と大声の伊多見が飛んできた
と。

「なんじやい、あわてて伊多
見さまよ。橋なんぞ落ちるの
は毎度のこつちや。おちつ
け。」

「おちつけど。じようだんじ
やない。將軍の義教さまが
おわたりになる橋が落ちた
んだぞ。」

「なんということもない。雨
がやんだらいつものように
渡しの船を二そうつかつた
らどうじゃ。」

「たわけこけ。そんなことな
らわかつとる。あわてとる
のは、大徳寺の領主さまが、
あさつてまでに橋を直し、
天下に名高い及橋を將軍さ
まに通つてもらおうとおつ
しやつとるからじゃ。」

(つづく)